

ダルタリー Daltary RZ

オランダを代表する超多収性ミニトマト品種！



品種特性

- ・オランダを代表する超多収性の個取りミニトマト品種、日本国内でも反収30 t 超えの事例が複数力所で出ている（高軒高ハウスでのハイワイヤー栽培）。
- ・果重は16~18g、低段からダブル花房となり、花房当り20~30の花数を着ける。
- ・やや大きめの果実だが、安定して糖度7度前後を示し食味も良い。
- ・裂果・軟果の発生が極めて少なく可販果率が高い。高温期においても非常に棚持ちが良い。
- ・果揃いが非常に良く、果房形状はコンパクトで、収穫の労力を20%減らせる。節間の長さは中庸で主茎が素直に伸長する。葉も比較的小さく整枝・誘引作業が行いやすい。
- ・養液栽培、ハイワイヤー栽培向きの品種ではあるが、節間はそれほど伸びず土耕栽培にも適応性を示す。
- ・高温着果性に優れていて、裂果・軟果をはじめとした高温障害果の発生が少なく夏秋栽培、抑制栽培にも向く。
- ・草勢は強いが生育が暴れることは無く、異常茎や芯止まりの発生はほとんど無い。
- ・病害抵抗性はトマトモザイクウイルス(Tm-2a)、葉カビ病(Cf-9)、萎凋病レース1,2、半身萎凋病、ウドンコ病についても比較的強い。

栽培のポイント

- ・草勢の強い品種のため、夏期の定植では摘葉等の草勢のコントロールが必要です。
- ・冬、春期の低温時期の定植では、強草勢の台木を利用して下さい。
- ・低段の果実が大きくなりすぎる傾向があるため、ある程度密植での栽培をお勧めします。
- ・比較的、求肥力・吸水力の強い品種です。十分な施肥・灌水管理を行って下さい。
- ・斑点病の耐病性が入っていないため、多湿条件下での栽培では防除をしっかりと行う必要があります。

(適作型)

作型	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
ハウス促成							●	△				
ハウス半促成												
ハウス夏越し長期												
夏秋雨除け												

● : 播種期 △ : 定植期 〇 : 収穫期

夏秋栽培、抑制栽培での試験結果

近年日本国内では、ダルタリーの夏秋栽培、抑制栽培への適応性について評価を頂きつつあります。この場で幾つかの試験結果についてご案内を差し上げます。
いずれの試験でも抜群の収量性を示しています。

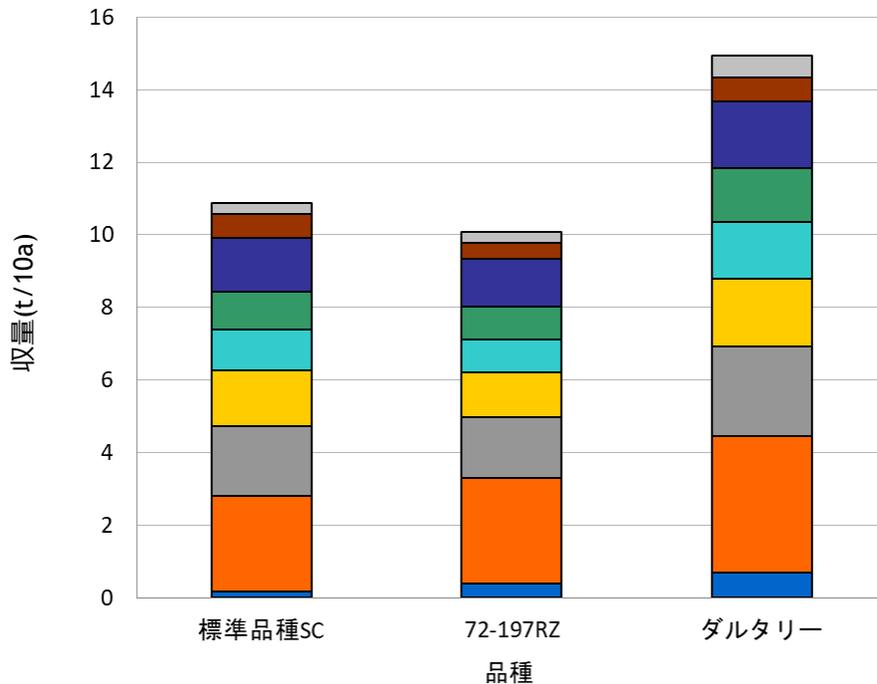


図1 熊本県準高冷地におけるミニトマトの夏秋栽培試験の月別収量結果 (2020)

■5月 ■6月 ■7月 ■8月 ■9月 ■10月 ■11月 ■12月 □1月

試験実施場所：熊本県南阿蘇町 定植日：2020年2月19日
定植法：128穴接木プラグ苗のココピートバックへの直接定植
栽培法：養液栽培 誘引法：簡易つりおろし
栽植密度：2,230株/10a 供試株数：各品種180~185株
台木品種：養液栽培向き強勢台木品種

表1 ミニトマト品種の抑制栽培試験(2020)

品種	総収量/株(kg)	不販果収量(kg)	平均果重(g)	平均糖度(Brix)
ダルタリー	3.07	0.17	17.8	6.3
アルル	2.00	0.19	9.4	6.8
標準品種TC	2.02	0.17	14.5	6.7
標準品種SP	2.12	0.16	14.9	6.1
標準品種SPP	2.43	0.31	12.1	6.4

* ライク・ズワーン・ブリーディング・ジャパン研究農場(千葉県芝山町)で実施した抑制栽培試験(土耕パイプハウス)
定植日：2020年7月13日 9cmポット実生苗を定植 収穫期間：2020年8月21日~12月15日 供試株数：各品種16株